

水田畦畔の雑草防除

- ☆風のある時や散布後に降雨が予想される場合は使用しない。
- ☆水田畦畔で使用の際には、専用ノズルを使用すること。
- ☆適用作物名・使用時期・使用量・散布量・総使用回数などラベルを確認する。

農 薬 名	使用時期	適用雑草	10a当たり使用量	10a当たり散布量 (希釈水量)	総使用回数		薬剤の特徴	使用上の注意
ダイロンゾル	雑草発生前～生育初期 (草丈15cm以下)	イネ科雑草 広葉雑草 スギナ	200～250㎖	100ℓ	1 回		・ 1 成分で、一年生のイネ科雑草及び広葉雑草に効果がある ・ 雑草発生前・雑草発生始期の処理により高い効果を示す ・ ゴル化により薬液の調製が容易となり除草効果が向上 ・ ザクサ液剤と一緒に混ぜることで抑制効果と殺草効果を発揮	・ 所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布する ・ 追加散布や繰り返し散布をしない ・ 土壌表面によくかかるように散布する ・ ザクサと混用の際にはダイロンゾルを先に入れる
ザクサ液剤	雑草生育期 (草丈30cm以下) (収穫7日前まで)	1 年生雑草 多年生雑草	500～1,000㎖	100～150ℓ	3 回以内 ※ 1		・ 緑茎葉部から吸収され地上部を枯らす ・ 日当たりの悪い場所でも安定した効果を示す ・ 低温時や乾燥した天気でも確かな効果がある ・ 散布後 1 時間たてば、降雨があっても効果あり	・ 散布後少なくとも 10 日間は、耕起したり雑草を刈らない ・ 薬剤が茎葉全体に均一にかかるように散布する ・ 土壌表面への散布は効果がない ・ 散布前に雑草を刈らない
バスタ液剤	雑草生育期 (草丈30cm以下) (収穫7日前まで)	1 年生雑草 多年生雑草	500～1,000㎖	通常散布 100～150ℓ 少量散布 30～40ℓ	3 回以内 ※ 1		・ 緑茎葉部から吸収され地上部を枯らす ・ 7～14 日で枯死する ・ スギナは 100～150 倍で高い効果がある ・ 休眠期の芝には使用できる ・ 散布後直ちに播種・定植ができる	・ 崩れやすい水田畦畔や道路では使用しない ・ 薬剤調合に濁った水を使用しない ・ 雑草全体に十分かかるよう、たっぷり散布する ・ バスタ少量散布の場合、専用ノズル（バスタノズル LV35）を使用する
ラウンドアップ マックスロード	雑草生育期 (収穫前日まで)	1 年生雑草 多年生雑草	200～1,000㎖	少量散布 5～25ℓ	3 回以内 ※ 2		・ 散布後 1 時間たてば、降雨があっても効果あり ・ 散布後、翌日から耕起可能 ・ 朝露がついた状態でも高い効果が得られる ・ 低温時や乾燥した天気でも確かな効果がある ・ 専用ノズルを使用すると少量散布で効果がある ・ 緑茎葉部から吸収され、地上・地下部を枯らす	・ 薬剤調合に濁った水を使用しない ・ 必要な薬量が雑草茎葉部に均一にかかるように散布する ・ 土壌表面への散布は効果がない ・ 散布前に雑草を刈らない ・ 崩れやすい水田畦畔や道路では使用しない ・ 少量散布の場合、専用ノズル（ラウンドノズル ULV5）を使用しないと詰まりが発生する可能性がある
		1 年生雑草	200～500㎖	通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ				
		多年生雑草	200～1,000㎖					
		スギナ	1,500～2,000㎖					
サンフーロン液剤	雑草生育期 (収穫14日前まで)	1 年生雑草	250～500㎖	50～100ℓ	2 回以内 ※ 2		・ 散布後 6 時間たてば、降雨があっても効果あり ・ 1 年生雑草は、5～10 日で枯死する ・ 多年生雑草は、14～30 日で枯死する ・ 低温時や乾燥した天気でも効果がある ・ 緑茎葉部から吸収され、地上・地下部を枯らす	・ 散布後少なくとも 7 日間は、耕起したり雑草を刈らない ・ 薬剤が茎葉全体に均一にかかるように散布する ・ 土壌表面への散布は効果がない ・ 散布前に雑草を刈らない ・ 崩れやすい水田畦畔や道路では使用しない ・ 薬剤調合に濁った水を使用しない
		多年生雑草	500～1,000㎖					
プリグロックス L ※3	雑草生育期	1 年生雑草	600～1,000㎖	100～150ℓ	5 回以内		・ 散布後 1 日で効果が出る ・ 気温が低くても効果が安定している ・ 散布 15 分後の降雨でも、安定した効果を発揮する ・ 根まで枯らさないから、傾斜地の崩れを防止する ・ 50 倍液散布で、スギナの翌年の発生を抑える ・ 土壌に触れると、素早く不活性化する	・ 薬剤が茎葉全体に均一にかかるように散布する ・ 土壌表面への散布は効果がない ・ 散布前に雑草を刈らない ・ 薬剤調合に濁った水を使用しない ・ 医薬用外毒物なので、取扱いには特に注意する
		多年生雑草	1,000～2,000㎖					
2, 4-D「石原」 アミン塩	雑草生育期 (草丈30cm以下) (収穫30日前まで)	1 年生雑草 多年生広葉雑草	100 g	100ℓ	3 回以内		・ 茎葉等から吸収され、地上部を枯らす ・ 日本芝に登録がある ・ 効果は 15℃ 以下で低く、高温時（25℃）ほど高い ・ 効力持続期間は夏期で約 20 日である	・ 広葉雑草に効果が高く、イネ科雑草には低い ・ 大型多年生雑草には効果が劣る
MCPソーダ塩	雑草生育期 (草丈30cm以下) (収穫14日前まで)	1 年生雑草 多年生広葉雑草 スギナ	200 g～400 g	100ℓ	3 回以内		・ 茎葉等から吸収され、地上部を枯らす ・ 日本芝に登録がある ・ 低温条件下でも作用性が低下しない ・ 効力持続期間は夏期で約 35 日である	・ イネ科雑草及び広葉雑草に効果が高い ・ 大型多年生雑草には効果が劣る ・ 効果の発現は比較的早いが、植物の生長回復も早い
カソロン粒剤 6.7	秋冬期～春期 雑草の発生前・初期	1 年生雑草 多年生広葉雑草 (マメ科を除く) スギナ	4～6 kg		1 回		・ 根雪前に散布することで翌春の雑草の生育を抑える	・ 薬剤が出来るだけ雑草の根元に落ちるようにする ・ 本田内に入らないように注意する

水田刈取後の雑草防除

主な雑草	効果的な農薬	10a当たり使用量	10a当たり散布量 (希釈水量)	総使用回数		散布後の耕起作業	散布のポイント
多年生雑草 1年生雑草	クログワイ オモダカ	ラウンドアップ マックスロード	500～1,000ml	通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ	1 回	効果が出る2～3週間 後を目安に、枯らした 後に耕起する	・ 多年生雑草の根を枯らす ・葉から吸収して根を枯らすため、水田刈取後は雑草を一度再生させてから散布する ・気温が15℃を下回ると除草効果が落ちるため、刈取後早々に散布を行う（ラウンドアップは低温でも効くものの効果は遅くなる）
				50～100ℓ	1 回		
1年生雑草	ヒエ	プリグロックスL	1,000ml	150ℓ	1 回		・ 1年生雑草（イネ科）の種子を枯死させる ・ほ場に散らばっている種子にもかかるようたっぷりと散布する

※1 ザクサ・バスタの総使用回数は、両剤合わせて水田畦畔3回以内
※2 ラウンドアップマックスロード・サンフーロンの総使用回数は両剤合わせて水田畦畔3回以内
※プリグロックスLの引渡には、印鑑が必要

・被覆植物を利用すれば草刈りの軽減と農村景観の保全が図れる。代表的な被覆植物には下記のものがある。
センチピートグラス・・・暖地型芝ではふく茎は地上を伏して這い進み、その各節から発根、枝分かれして驚くほど広く繁茂する。（西洋芝）
草丈は10cmあまりで5月から10月頃まで生育し、晩秋には休眠して越冬する。

※大豆の雑草防除については、P94～95を参照する